

青葉区民文化センター フィリアホール  
令和3年度(2021年度)事業計画

東急コミュニティー・神奈川共立・横浜市民施設協会共同事業体

## ●第2期4年目(令和3年・2021年度)の事業計画基本方針

指定管理第2期4年目の事業計画では、前年度から続く「新型コロナウイルス」の感染状況が予断を許さず、施設利用への影響、自主事業を含む音楽ホールでのコンサートでの各種制限や来場者減少といった影響が継続していくという前提での事業計画とします。その上で、令和4年度は、天井脱落対策工事が控えており、指定管理2期目の実質的な最終年度との認識の上で、安定かつ積極的な事業計画を策定します。

令和4年(2022年)のホール及びホワイエの天井工事による「閉鎖(約1年間)」を告知し、一方でリハーサル室・練習室は通常通りの利用が可能である旨の周知を図ります。

(再確認) 第2期の青葉区民文化センターフィリアホールの基本コンセプト(提案企画書より抜粋)

“フィリアホール”と“青葉区民文化センター”の二つの顔で～“地域を『繋げる』フィリアホール”～

「文化発信、発表の場を提供するフィリアホールの顔」と「地域連携、協働する青葉区民文化センターの顔」の「二つの顔」を理想とし、区民文化センターに求められる役割を認識し、確実に成果を上げることを目指す。

◎フィリアホールとしての文化事業活動:提案時コンセプト

『文化事業は、「コンサート・シリーズ」と「エデュケーション&コミュニティ・プログラム」の二軸で』

「コンサート・シリーズ」は定着シリーズを継承し、高品質な芸術を提供し、地域が誇る文化発信拠点を目指す。「エデュケーション&コミュニティ・プログラム」は、本格的アカデミー系プログラムと幼児・ファミリー向けの企画や区民のニーズに沿った地域密着型企画を実施します。

◎青葉区民文化センターとしての、地域コミュニティ・文化的コモンズ形成の活動:提案時コンセプト

『文化的コモンズ形成への取り組み方針』

地域課題と向き合い、ニーズを捉え、様々なネットワークを作り、繋げて、音楽で地域を繋げる＝文化的コモンズ形成の牽引役を果たす。事業の展開とともに、地域の「協働する人財」の育成にも取り組む。

●キーワードは「ふれあう」「支える」「活動する」「集う」

◎施設運営の基本的考え方:提案時コンセプト

「人財」「施設」「収支」「情報」の4つの柱を運営の軸とし、文化発信拠点として地域の絆をつなげる役割を果たす、適切な施設運営に努めます。

◎令和3年度(2021年度)の位置付け

令和3年(2021年)は、第2期提案時とは全く前提が違う中での事業展開を考えた年度となります。今年度は、「コロナの感染防止対策徹底」を大前提として、出来るだけ通常の事業運営ができるように対応していきたい。施設をご利用の方々にも協力を求めながら、「安心安全」な施設のご利用を目指します。自主文化事業は、開催可能性は予断を許さない状況の中、昨年度からの延期公演も含め、通常通りの企画実施を予定し、新たに動画配信なども考えたコロナとの共存を目標とした文化発信を定着させたい。地域事業、協働企画も、コロナとの共存を考え、動画配信やオンラインでの双方向企画等を積極的に展開するようにしたい。二つの顔の新しい姿を確立し、今後につながる青葉区民文化センターの事業運営を定めていきたい。

●鑑賞型事業「コンサートシリーズ」

昨年度からの延期振替公演と新たな公演とを組み込んで、例年通りの本数の実施を目指します。収容人数はその都度ガイドラインに沿って検証し、その中でもより多くの方々にお越しいただけるように券売数・券売方法・販促広報などを考えます。HPやSNSで、ガイドラインの徹底・フィリアホールの感染対策を周知させるようにし、コロナ禍での癒しを提供できるコンサートの実現に取り組みたい。集客状況によっては「収支」面で厳しい公演になることも多くなるが、「利益重視」ではなく、市民への文化の提供発信という区民文化センターの役割を優先させた事業展開としたい。

●「エデュケーション&コミュニティ・プログラム」

エデュケーションプログラムでは、アカデミー系プログラムは定番のものを中心とし、クラシックコンサートへの興味喚起となるような企画を実施します。コミュニティプログラムでは夏冬のファミリーコンサートは、コロナ共存を意識した感染対策を徹底した内容の検討を行います。ワークショップ・プチコンサートは、動画配信やオンライン形式も視野に入れ、幼児向け、子育てママへのプログラムや地域施設との協働による「地域に音楽を!!」の観点を重視した企画で、コロナ共存の中での満足度を上げるようにします。コロナ禍だからこそ地域とのつながりで音楽を発信できるプログラムを積極的に実施したい。

●地域コミュニティ形成事業

区民企画は、今年度も公募しますが、昨年から繰り越し企画を優先し、新たな募集は時期等を検討していきます。実績を基礎に、更なる青葉区民文化センターの支援強化、区民協働型事業の発展を模索します。地域施設連携は、コロナ過だからこそより強化充実させ、アウトリーチはもちろん、動画配信など通して、さまざまな事業協力を実施します。地域のニーズを踏まえ、それに応えて、音楽で地域を繋ぐ青葉区民文化センターとして、新たな施設も模索しながらの事業を定着させます。昨年度実施したあおば支援学校との連携事業も継続してできるようにしたい。

●施設利用・施設運営

施設利用では、コロナ共存の中、各種ガイドラインや利用時感染対策を遵守し、色々な制約の中でご利用して頂くを得ません。消毒・換気・3密対策等の徹底にご理解いただき、制約条件を遵守したうえでのご利用をお願いします。利用キャンセルへの返金等は指示に従い、直前キャンセルでの空き枠を有効利用できる方策を考えなければなりません。直前での空き枠を告知し利用につながるかを考えたいと思います。青葉公会堂の工事期間でもあり、リハーサル室・練習室利用も増加していくと思われます。はまっこカードのない方達でも、一時利用登録での対応も考えます。利用申告用紙を利用して、日常的にご意見ご要望を収集するご意見欄を設けています。再度趣旨をお伝えし、より多くのご意見ご要望を受け取る努力をします。

●施設管理面

令和4年度の天井工事に向け、実施設計と共に工事計画が進行していきます。その中で、経年劣化による修繕の時期、費用等を詳細に計画し実施します。突然の不具合故障への対応は対応するとし、根本的な修繕や交換は工事期間中に行う方向で対応出来ればと思っています。光熱水費は、日常的な「節電」「節水」に心がけながら、ホールやホワイエ以外の場所のLED化等は推進していきます。

I. 令和3年度文化事業の活動

1. 文化事業活動の基本方針

今年度も、フィリアホール「顔」となる、上質な音楽発信と地域密着型企画を展開します。上質な音楽文化を届ける「コンサート・シリーズ」では今までの経験実績の下、コロナ禍での感染対策や入場者への注意喚起などを徹底したうえで、地域に市民をはじめ多くの方に、「生の音」の素晴らしさを感じていただけるコンサートをお届けすることを心がけます。「エデュケーション&コミュニティ」分野では、若手音楽家を育成するアカデミー・プログラム、幼児向けやファミリー向け企画のブラッシュアップを図り、コロナ禍の中でも地域の人達が安心して音楽を楽しんでいただける企画を実施します。

2. コンサート・シリーズ

フィリアホールが市内を代表する文化拠点との自覚を持ち、ブランドを維持し、区民文化センターの使命として、区民ニーズに応えた地域が誇れるホールを目指します。コンサートシリーズでは、各種媒体を活用した広範囲の販促告知、加えてクラシック音楽へのハードルを高く感じている層を含めた幅広い顧客向けに、会報誌などを通してアプローチしていきます。昨年度からの延期振替公演が多く、シリーズごとの本数も例年とは大きく異なる年度になります。またコロナ禍の状況によっては来日等で中止となる可能性のある中での事業運営となります。

○2021年度の主なシリーズの概要

《女神との出逢い》シリーズ

昨年からの延期振替は、南紫音(Vn)、三浦友理枝(Pf)、アンヌ・ケフェレック(Pf)の3公演。シリーズの最終回となる仲道郁代(Pf)のシューマンシリーズ。海外からは世界各地で話題の若手キアロスケーロ・カルテット(SQ)。中堅世代としては突出した存在感を示す諏訪内晶子(Vn)は久々に無伴奏で登場。そして定番の吉野直子(Hp)で締めくり。全体的な公演本数の調整で、今年度は例年より1つ少ない7公演で予定。若手からベテランまで人気・実力を兼ね備えた世界的アーティストが出演

《ランチシリーズ》は毎年6公演開催のところ、今年度は3公演に集約し、いずれも昨年からの延期振替公演。横浜出身・在住、世界的に人気を博す川口成彦(フォルテピアノ)、世界中のギターコンクールを総なめた天才マルツィン・ディラ(ギター)、そしてコロナで2年越し開催となる岡本侑也(チェロ)。多彩なジャンルで楽しさを感じられる内容になっています。

《ハイムコンツェルトシリーズ》は国内外の優れた室内楽団を紹介するシリーズで、昨年からの振替1本と新規2本を予定。エキサイティングな演奏のフォーレ四重奏団は、昨年度からの振替。2018年の来日公演で大いに話題を呼んだベルチャ四重奏団は初登場。そして現代の弦楽四重奏団の最高峰、ハーゲン・クアルテットが13年ぶりにホールに登場します。

《ニューイヤーコンサート》でN響メンバーによる室内オーケストラと共演するのは、川久保賜紀(ヴァイオリン)、そして藤田真央(ピアノ)。チャイコフスキーコンクール最上位入賞の二人との饗宴で、新たな年明けにモーツァルトをお送りします。

《トーク&コンサート》シリーズ「マイフィールド《私の人生・私の音楽》」では、一昨年度からの振替で「左手のピアニスト」館野泉が満を持して出演。また昨年実施ができなかった「神奈川フィルの名手による室内楽シリーズ」も、今年度は例年通り自主と共催で1公演を実施する予定。

《特別企画》は、昨年度からの延期繰越を2本と新規企画を1本予定。区制記念で予定し繰り延べが続いた千住真理子(Vn)のイザイ無伴奏作品全曲演奏会。またクラシックに詳しくない方でも楽しめる企画として、アイルランド発のケルティック・コーラスグループ:アヌーナ、フラメンコギターの第一人者:カニサレスのコンサートをそれぞれ予定します。

3. エデュケーション&コミュニティ・プログラム

一流奏者によるプロデュース/マスタークラス企画を主軸にした「ミュージックアカデミー・プログラム」、小さいお子様と家族向けの「キッズ&ファミリー・プログラム」、そして地域住民・団体を巻き込んでコミュニティ形成に携わる「地域コミュニティ・プログラム」3つの軸をベースにプログラムを実施します。音楽を通じた文化的なコミュニティ形成につながる企画を行います。

○2021年度の主なシリーズの概要

「ミュージックアカデミー・プログラム」は定番企画として、指揮者・広上淳一氏による東京音大指揮科生徒との公開講座、チェリスト・山崎伸子氏のプロデュース企画と、昨年からの延期となるブルーオーロラ・サクソフォンカルテットによるコンサート&マスタークラス、若手音楽家の発掘育成を視野に入れたフィリアホール室内楽アカデミア(未来にはばたくドリームコンサート)の4本を予定。定着してきた企画を展開し、ホールを拠点にしたアカデミープログラムの認知度向上に努めます。

「キッズ&ファミリー・プログラム」では、0歳から入場できる「プチ・コンサート」やワークショップ、5歳～小学生前後を対象とする夏と冬のファミリーコンサートを主軸に予定。多くの支持を得ており、一方で「コロナ禍」対策が最も課題となる企画として、万全の態勢と内容を吟味し、安全を確保した上で楽しく喜ばれる企画を展開します。こどもの感性を育てる機会を提供し、保護者層にもこどもとの思い出になる時間、同じ環境で住まう住民向けのコミュニティを提供してきました。若手アーティストを積極的に起用し発表の場として活用し、動画配信なども検討して、「コロナ禍」ならではの企画を検討していきます。

「地域コミュニティ・プログラム」では、協働型企画として区民提案型企画を今年度も公募します。区民が立案・実施する地域のニーズや課題を意識した地域密着型企画として発展充実させ、青葉区民文化センターとして地域との協働・地域人材の育成プログラム展開を図りたいと思います。

「フィリア・ジュニア合唱団」は、新入団の地域の小中学生を迎え、運営委員の活動も定着し引き続き「区民によって企画運営する」活動としてサポートします。コロナ禍を意識し、感染防止策を徹底した形で活動を行います。こどもたちが合唱を通して、自分たちの居場所づくりや仲間づくり、そして達成感を感じてもらえる合唱団にしていきたいと考えます。各種のアウトリーチ活動も積極的に行っています。

「横浜市芸術文化教育プラットフォーム事業」による小中学校へのアウトリーチ活動を引き続き継続します。加えて、「地域諸施設へのアウトリーチ活動や提携企画」も、昨年度以上に発展拡大し、費用負担も含め積極的に各施設への企画提案も充実していきます。地域とつながりを充実させる活動を行います。

4. 国内・地域で活動する優れた音楽団体との共催事業の実施

国内外の優れたアーティストによるリサイタル、地域のオーケストラ公演など年間20本程度実施します。従来のネットワーク

を生きし、ホール主催では実現が難しい幅広いジャンルの文化芸術を提供します。従来貸館で実施してきた優良公演も積極的にサポートします。若手発掘という観点から、各種のコンクールとも連携はもちろん、今年度は横浜で若手音楽家を応援するNPO法人「浜のJACK」との共催連携が実現できました。

### ◎令和3年度の鑑賞型事業の基本ラインナップ

コンサートシリーズ					
公演(シリーズ)名	コンセプト	開催日	実施想定月	年間収支(税抜千円)	
土曜ソワレシリーズ 《女神との出逢い》	フィリアホールの基本シリーズ。ベテランから若手まで、「女性アーティスト」によるリサイタル	土曜夜 年7回	4・9月 10・11・1・2・3月	収入	12,261
				支出	10,592
ウィークデーコンサートシリーズ 《らん・らん・ランチにいい音楽》	休憩なし1時間1,500円。気軽に音楽に触れる機会の提供	平日昼 年3回	6・9月 12月	収入	1,355
				支出	1,404
ハイムコンツェルトシリーズ 《変革の四重奏(クアルテット)》	ホールの音響を最も生かせる「室内楽」編成で、国内外の優れたアーティストによる室内楽の精髓を紹介。	土日 昼 年3回	6・7月 12月	収入	7,715
				支出	8,770
トーク&コンサート「マイ・フィールド」 《私の人生、私の音楽》	休日昼2時間のトーク&コンサート。アーティストが人生観、音楽観を語り、聴くだけではないより深い体験	土日 昼 年2回	9月	収入	1,539
				支出	1,139
ニューイヤーコンサート	新年を飾る華やかなソリストとN響のメンバーによる室内オーケストラとの饗宴	土曜 昼 新年	1月	収入	2,853
				支出	3,283
神奈川フィルの名手による室内楽 《名曲の午後》	地元神奈川フィルとの連携、客層の拡大にも貢献。共催でも1公演	平日昼 年1回	4月 (9月共催)	収入	975
				支出	809
特別企画	他劇場との連携、シリーズの枠に収まらない特別な企画。	土日 夜 年4回	7・9月 12月	収入	6,300
				支出	5,084

エデュケーション&コミュニティ・プログラム					
公演(シリーズ)名	コンセプト	開催日	実施想定月	年間収支(税抜千円)	
ミュージックアカデミー・プログラム	学生向けマスタークラス、音楽愛好家の方も参加できるレクチャーコンサートなど。多彩なプログラムを用意	平日・土日昼 年4回	6月 10月(2)・2月	収入	4,046
				支出	4,948
キッズ&ファミリー・プログラム	幼児・ファミリー、高齢者等を対象とした体験イベント	平日・土日 年6~8回	8月・12月	収入	2,187
				支出	2,614
フィリア・ジュニア合唱団	運営委員と講師陣が合唱指導・コンサート企画までを実施。アウトリーチ活動実施	練習随時 年1回公演	練習随時 3月	収入	473
				支出	718
地域コミュニティ・プログラム	区民が企画から運営までを実施。地域課題に取り組む区民企画	土日 昼 年2回	公募による	収入	
				支出	100
アウトリーチ・プログラム	学校や・福祉施設等へアーティストを派遣、STスポット事業協力	平日 年5回~	学校等と協議	収入	
				支出	

フィリアホール共催公演			
公演(シリーズ)名	コンセプト	開催日	想定公演
フィリアホール共催公演 ・神奈川フィル ・音楽事務所主催 ・浜のJACK ・(協力)各音楽コンクール	ホールイメージ向上に貢献できる厳選された質の高い公演  貸館公演同様に施設利用料等は主催者負担。ホール優先確保、メンバーズDMやポスター掲載で広報宣伝・販売をホール側がサポート。	平日昼 日祝昼 年10~15	年間10~15本 (協力含む)

II. 令和3年度 地域コミュニティの形成・社会的包摂推進への活動

1. 地域コミュニティ形成への基本方針

第2期の重要テーマである「青葉区民文化センターの顔」の活動は、3年間の活動で、十分にその役割を果たしています。コロナ禍で活動の制限があった昨年度に得た経験、課題、ネットワークと地域の人財を活用し、今年度も、充実発展した活動を目指し、コロナ禍だから「できる・やるべき」活動を考えていきます。そして、来年度ホールが休館している時期にどのような活動をしていけるかにつながる基盤づくり、基礎固めをする年度にするようにしていきます。

文化事業と連動したエデュケーション&コミュニティプログラムとして「地域との連携」を担うコミュニティプログラム企画を実施。地域連携・協働型企画では、今年度も区民企画の募集実施、地域人財の育成、地域施設や団体との連携協働企画などを実施します。若手音楽家育成では、文化事業で行う企画と地域活動への若手音楽家登用の両面で実施します。

2. 地域活動で目指す課題の設定

地域活動をするにあたっては、地域の様々な課題へのアプローチを掲げ、活動内容を設定していきます。地域コミュニティ・地域コモンズ形成は大切課題ばかりです。広範囲で複雑なものですが、こうした課題やテーマに沿って、様々な活動を展開していきます。アプローチしていきたい対象は以下の通りです。市民協働・地域連携の中で活動を模索していきます。

★子育て世代(パパ・ママ)	★青少年(小中高)	★シニア世代	★社会的包摂を考えた人達
---------------	-----------	--------	--------------

3. 文化事業と連動する活動

●エデュケーション&コミュニティ・プログラムとの関連事業

文化事業のエデュケーション&コミュニティでは、地域とのつながりを考える「コミュニティ」プログラムを提供します。主にファミリーや幼児向けのプログラムは、「二つの顔」がともに互いの力を発揮し、連携しあう事業活動だといえます。コロナ禍において、どうすれば安全に開催できるかを吟味精査し、何を提供し、何を感ぜてもらおうかを考えていきます。

◎令和3年(2021年)の主要な企画

基本的な枠組みは例年通りですが、コロナ禍の感染対策、ご来場者への安心感を与えられる内容には動画配信も含めて検討し、こういう時こそ「楽しめた」癒されたと思われる企画を実施していきたいと思ひます。

エデュケーション&コミュニティプログラム関係

●地域の子どもたち・ファミリー層に向けた活動

企画	時期等	企画概要及び計画概要
オープンデー	8月	未就学児のお子様とファミリー層に向けた季節プログラムです。夏休みと冬休みにホールで3歳以上入場可の本格的なコンサートを開催するほか、施設内の各所の見学やワークショップ・ミニコンサート等も同時に開催するお祭りイベント「オープンデー」を開催しています。
ファミリーコンサート	8月	
ウィンターコンサート	12月	
★例年恒例の企画ですが、昨年は夏はオープンデーも含めて中止。冬も楽器体験などのイベントはなく、コンサートのみで実施した。今年度はオープンデーもコンサートもその内容や開催企画を大幅に見直し、コロナ禍の中での事業実施を目指します。冬のコンサートは初めて年末に予定して、祖父母の方も一緒に過ごせるようにしていきたい。		

●0歳からの乳幼児と子育て世代層に向けた活動

★下記の企画も例年通りとはいかず、コロナ禍でのやり方を模索した中で実施していきたい。

企画	時期等	企画概要及び計画概要
プチコンサート	春と秋	乳幼児とお母さんが楽しめ、お母さんには「ひと時の癒し」を届ける企画。対象年齢ごとに内容を変化させ、吟味検討、改良を重ねて、より楽しめる企画にしたい。また、ホールホワイエ、リハーサル室など、内容に応じた場所の選定や広報も考えて実施したい。
ワークショップ	年3回程度	過去は、手作り楽器体験や父親向けワークショップなどを実施。今年度も対象や内容を考え、「気軽に音楽に触れよう」趣旨を大切にしたい企画にし、地域の施設との連携も模索したい。

●ジュニア合唱団の活動

企画	時期等	企画概要及び計画概要
ジュニア合唱団	第2・4土曜 3月 コンサート	コロナ禍でも、合唱団のつながりを絶やさず練習ができるように伴奏や歌のポイントを動画で配信。ジュニア合唱団は、単に「合唱」を指導し発表する場ではなく、小中学生がここに参加し、ここに居場所があって、どこかホッと楽しめるような場になるような活動にしていきたいと思ひます。年度の終わりに成果を発表する時は楽しく満足感を与えてあげたい。
区民の企画から生まれた事業。青葉区に住む小学生から中学生を対象に、通年で合唱の練習をし3月にコンサート開催。区民の運営委員と講師を中心に活動、フィリアホールは事務局として運営しています。		

●市民協働促進に向けた活動

企画	時期等	企画概要及び計画概要
区民企画公募・選定・協力実施	通年	昨年度実施できなかった企画は今年度に振り替えるようにし、新たな企画公募は時機を見て実施していく予定です。コロナ禍の中での安心な開催に向け、施設はより強力にサポートしていきます。
音楽をツールとして地域課題や社会課題解決につながる市民活動の活性化をサポートしていく取組です。子育て・シニア世代・福祉関係・人財発掘等をテーマに、地域貢献への意欲を活かす区民企画を募集し、開催に向けての支援や相談を受けながら、共に地域に貢献できる場を積極的に創出します。また、各施設や市民団体とも協働して音楽を通じて地域ネットワーク作りの提案の場づくりを推進します。		

●市民協働促進に向けた活動

地域連携事業	9～2月予定	令和2年度は、コンサートをホールと地域の施設と繋ぎ生配信を実施。今年度も動画配信
--------	--------	--

地域連携事業 「あおばカノン」	定	なども検討し、地域との連携を強化するとともに、ケアプラザとの連携もより明確にしたチャリティー事業にしていきます。
「青葉区を音楽で繋がる」をコンセプトに、フィリアホールと地域ケアプラザがこの企画をスタートし、現在は地域の住民が代表になり、福祉作業所・音楽活動団体など様々な団体と連携しながらチャリティーコンサートを開催しています。この企画を通して団体や個人が繋がることで、その後の活動に活かせるハブ的な成果を求めた企画として実施しています。		

●若手・地域音楽家育成支援

企画	時期等	企画概要及び計画概要
若手音楽家の育成	通年	令和元年から始めた「インキュベーション・プログラム」を継続予定。令和2年度はコロナ関連対応で日程確保ができず中断したが、一部横浜市の「芸術文化緊急支援プログラム」に申請したアーティストに対する施設利用サポートという形を実施。今年度も検討していく。
演奏・活動機会の少ない若手演奏家を積極的に登用し、演奏家自身による企画の実現のサポートなどを行う企画。以前から主催公演で定期的に出演を依頼するほか、2019年度から開始した「インキュベーション・プログラム」などでは若手演奏家自身が携わる企画を公募し、広報・施設利用のサポートなどにより、演奏家の積極的な活動の場を提供することを目的としています。		

●地域連携・アウトリーチ活動

地域に音楽を届けたいという趣旨のもと、地域の様々な施設や団体と連携協力していきます。STスポットを通じた学校訪問はもちろん、色々な場所に積極的に出向く活動を展開します。今年度も、新しい施設との連携協力の場を模索し、更なるネットワークの拡大、新しい事業協力の内容などを模索していきます。

◎令和3年(2021年)の主要な企画

STスポット アウトリーチ	下期 学校 連携	STスポットと連携事業(学校対象)。学校と連携しプロのアーティストを呼んで、音楽の楽しさや素晴らしさを学んでもらう。学校からも好評で、子供の反応が楽しい事業。アーティストと学校を繋げ、実りある時を過ごせるよう努力したい。学校と連携したコロナ対策も実施検討。
地域施設 アウトリーチ		ホール以外の施設での演奏会企画。区内施設と連携し地域の方に音楽を気軽に楽しんでもらうよう、多くの場所での企画を検討。
ケアプラザ等 連携	適宜	昨年度は、コロナ禍で実現が難しかった地域のケアプラザ施設との連携、順次全施設にコンサートを提供できるような基盤を作る事業も、今年度は経験を活かした実現可能な補法での事業推進を目指したい。
地区センター連 携	適宜	地区センターやコミュニティハウス等と連携し、コンサートを開催していく。地域の音楽家や若手音楽家とも連携し、気軽に「上質な音楽」に触れる機会を提供したい。コロナ禍でもできること、出来る方法を検討し、動画配信も含め積極的に提唱していきたい。

●市民協働・人財育成に向けた活動

地域での事業を展開するには、地域の人達との連携が充実していなければなりません。その地域の人財を育成していくことも青葉区民文化センターの重要な役割だと意識しています。

区民サポートの 募集・活動支援	区民サポーターを募集し(通年募集)、ホールの仕事をお手伝いしていただきます。接客・マナー研修も実施し、接客のノウハウを得ていただきます。
区民企画で育成	区民企画を実施する人には、共同で企画実施していく中で必要な専門的知識やノウハウの研修などを行い、企画終了時には地域で活動できるような人材育成を目指します。
若手音楽家の 育成	文化事業の「若手育成企画」とともに、プチコンサートやアウトリーチを通して、若手音楽家の方々には自身で企画プロデュース、集客などの実践を学んでいただける機会としたい

●市民主体の活動への支援協力サポート

★平常時とは異なり、コロナ禍での活動については、合唱団を筆頭に、今後の活動体制をを模索している団体は多いと思います。青葉区民文化センターでも何が出来るのかをしっかりと考えた支援策を考えていきたい。

ホール利用申請から本番まで、施設利用責任者、舞台技術スタッフが、詳細な相談・アドバイスをを行います。技術的な提案、舞台設営の方法や進行管理での相談も行います。
チケット委託されている公演の情報(内容、発売日等)を、WebサイトやSNS(Twitter等)で公開し、紙媒体の「イベントカレンダー」等も含めて、利用を強力にバックアップします。
地域の文化活動を行う人財育成・支援活動として、市民団体や地域の方々にとっての相談窓口と人材の育成拠点として具体的な事業項目の検討を行います。
コミュニティプログラムやアウトリーチ活動などで、協力していただける市民団体や音楽家と連携協働して、活動の場の提供だけではなく、地域とのつながりを持てる活動を支援する。

### Ⅲ. 施設運営に関する活動

#### 1. 施設運営の基本方針

基本理念は、「多くの方々に成果を発表の場、日々の練習の場、人々が集える場としてご利用いただき、皆様に喜んでいただける施設」であることは変わりません。しかし、今年度はコロナ禍が継続する前提に立ち、ガイドラインや行政からの指示を遵守して、制約の中でのご利用をして頂きます。申請・ご利用本番まで、その時点での制約条件をご理解の上で、感染対策等を含め一定のルールをお守りいただくようお願いしていきます。

#### 2. 適正な施設運営管理

##### ◎ 公平公正な施設利用の原則・ルールの徹底

条例及び横浜市市民利用施設予約システム(以下予約システム)に従い、公平公正な施設運営を継続します。ホームページ上の「施設ご利用案内」を、適宜改修し、判りやすく利用しやすい施設を目指します。

「利用要綱」(HPに掲載)に基づく「利用の手引き」や各種「利用案内」(HP掲載)も、常に内容の改編加筆修正を繰り返し、必要に応じ、ご利用者へ配布説明をします。各種の貸出備品の取り扱いも、問い合わせや利用時の説明に対応し、ご利用の方々が、ルールを守って、気持ちよくご利用いただける施設運営を行います。

★コロナ禍継続の中では、「3密回避、換気、そして終了後の備品消毒」などの基本は継続して遵守していただきます。発声や管楽器などは各種ガイドラインに沿った対応を、また利用人数や利用時間の制限はその時点でのガイドラインに沿って対応します。

##### ● 適切な利用料金と利用区分の設定

施設利用料金・利用区分については、別表1のとおり、現行利用料金・利用区分の体系を継続します。

基本利用料は利用申請時に現金でお支払い、延長料金、附帯設備費等は当日に現金でお支払いいただきます。料金納入や返還等の基本事項については、利用要綱・手引きに明記し、利用者には適宜ご案内をします。

##### ● 減免・割引サービスの考え方

利用料減免に際しては通常運営に大きな支障をきたさず、かつ特定団体への優遇とならないよう判断します。

##### ◎ 利用料金の割引サービス

ホール利用者のリハーサル用途でのホール利用の場合は、通常の30%割引でご利用頂く事が出来ます。

またホール空き区分を練習でご利用される方への利用日の27日前～7日前まで受付の場合は通常の30%割引を行っております。

##### ● 利用状況の適正把握

施設利用人数を適正に把握するため、ご利用時の利用人数を終了時に報告してもらいます。ホールでの公演の場合も、主催者・出演者数に加え、出来るだけ受付にて入場者数を把握して報告をしてもらいます。利用人数報告用紙には、ご利用後の片づけ、清掃などのチェックリストも兼ねています。

#### 3. よりご利用いただくための運営努力

##### ◎ 稼働促進策

コロナ禍継続の中でも、各種制約や基本ルールを巡視していただくことを前提に、出来るだけご利用いただくための環境整備や各種対応方法を検討していきたいと思っております。

##### ● 諸室の稼働(ご利用予約)状況の広報

HPの施設ご利用案内のコンテンツ内からの「空き室状況」が確認、情報コーナー・練習室ロビーへの「空き室状況」掲示により、空き枠の予約の促進を図ります。

##### ● 利用できるジャンル形態の柔軟な運用

「音楽」を介在させた内容は維持しつつ、利用できる形態にはより柔軟に対応します。また区民企画や地域連携事業、自主の各種企画でのリハーサル室・練習室の活用幅を広げるようにします。

##### ● 抽選後のホール空き日でのリハーサル・練習利用促進

ホールでの、リハーサルや練習利用促進について、公演予定団体はもちろん、コンクール等の出場者向けにも広報を行い、割引サービスを利用した「ホールでのリハ・練習」の機会ができることをアピールしていきます。

##### ● ホール空き日を利用したピアニストの夢・カゲレンの実施

ホールの空いている日利用で定着している「ピアニストの夢」や「カゲレン！」は、継続します。コロナ禍での初めて実施した「スタインウェイ」使用のピアニストの夢も適宜開催したい。

##### ● レコーディングや撮影等の利用促進

ホールでは「撮影・録音・学校法人」を対象に一次利用制限を緩和し、撮影録音等の利用促進を図ります。抽選後の空き日利用となるため予め広報していくことはできませんが、柔軟に対応するようにしています。

##### ● コロナ禍で、動画配信や録音録画の希望もあり、ライブ配信は設備対応が可能になっています。また録音録画も柔軟に対応し、各種の補助金申請対象事業には利用料等の減免も検討し、音楽家の活動支援に繋がります。

##### ● 夕夜間の利用促進に向けた活動

リハーサル室・練習室の夜間の利用促進は、コロナ禍の状況により閉館時間が変化することがあり、今年度は積極的な対応は一時控え、その後の状況により検討をしていきます

#### 4. ご利用満足度向上のために

##### ◎ ご意見ご要望・ニーズの把握と対応

意見要望ヒアリングとその後のPDCAサイクルを確立させ、今まで以上にご利用者の声を踏まえて、満足度向上に取り組み、皆様にご利用していただける運営を展開してまいります。

##### ● ご意見ご要望の収集とPDCA

ご利用状況(人数等)の報告用紙の裏面に、自由記入欄を設け、ご意見ご要望を任意提出していただきます。しかし、この1年は、ほとんどご意見ご要望を記入される方が減っています。記入促進のための声掛けや掲示等を検討します。ご意見箱の設置のような、別の方法や時間をかけて記入できるように用紙を別途設置するなどの新たな方式も検討します。

##### ● 附帯設備や備品の充実

利用者サービスの充実を求め、備品・附帯設備の新たな購入等を検討します。利用者の声・要望をお聞きし、諸室の備品・附帯設備の改善を進め、購入ではなく既存備品の修理改善等も検討してまいります。

##### ◎ ご利用者へのサポートの充実

##### ● ホール利用時の全面サポートの充実

利用申請から本番まで、担当スタッフによるサポート体制を検証し、屈指の響きのフィリアホールでの本番を、より上質なものに仕上げようとする提案を行っていきます。

##### ● 利用団体への支援策

提案時に掲げた市民団体の活動支援は、現在HP上の公演カレンダーでの団体やチラシへのリンクやイベントカレンダーでの広報などを行っています。今年度は、どのような内容が「支援策」となり、より地域の活動を応援できるかを改めて考え、出来るものを実現させていきます。

#### 5. 広報・プロモーション活動、情報提供

「既存利用者」と「新規利用者」の2つの軸を持って、広報・プロモーション活動を実施します。HPやSNSの利用を強化してまいります。SNSを普段利用しない層に対しても情報が行き渡るよう、紙媒体(新聞・チラシ・地域情報誌・ダイレクトメール・イベントカレンダー・会報誌)も充実させます。

##### ◎ 広報・プロモーション活動の新たな試み

##### ● 会報誌の作成と活用促進

年4回発行し、青葉区内の各施設等へも配布しています。公演への興味喚起、音楽への興味喚起、さらに施設利用や地域事業の情報を掲載し、青葉区民文化センターの認知度向上、来場促進につなげます。コロナ禍の影響で昨年度は発行していないので、今年度は公演情報に限らない情報発信を模索し、新たなフィリア来場者の開拓ツールとして、活用策を考え、地域への配布や配架先を模索していきます。

##### ● ホームページ(HP)の改良

全面リニューアルしたHPの更なる充実を目指し、費用対効果の高い改編策を常に検討実施します。昨年度はYouTubeのアカウントも取得しており、今後はここからの動画配信、動画閲覧を積極化していくようにします。コロナ禍では利用の条件、公演の開催状況等の情報発信に活躍しており、ネット利用者の増加に合わせて、施設告知、券売情報の発信、来場促進等のHP活用を新たな情報発信のツールとして定着させます。

##### ● イベントカレンダーの改良継続

公演情報に特化した情報媒体に変更したイベントカレンダーは、常にブラッシュアップに心がけます。

##### ● チケットWeb予約システムの充実

チケット予約システムの改良は徐々に利用増になっています。販売促進、満足度向上に向けたWeb先行予約での座席指定可能、セット券や学生券の24時間Web予約などの改善をしました。今年度は、その改善部分の告知徹底をし、わかりにくいWeb予約の方法の周知徹底やご案内の徹底により利用促進を向上させます。

##### ● SNS等の活用と環境整備

メールマガジンやTwitterの活用の充実は、スマホ普及に伴い、その効果が広がっています。情報発信策として頻度内容を常に検証しながら充実を図ります。Twitterでの双方向対応は情報の安全管理上難しいのですが、求められる情報を模索し、対応できるものはしていきたいと思えます。

SNSの活用においては、人権侵害防止や個人情報保護等に細心の注意を払い適切な運用を行います。

#### 6. 年間利用率目標

ホール	69%	自主事業の充実と、地域連携事業での活用、空き枠利用のを促進します。
リハーサル室	76%	現在、平均稼働率は90%近くであり、ご利用者様から高い評価を頂けております。今年度は、リハーサル室・練習室なども、自主事業での効果的な利用を高める等、より安定した諸室の利用率を目指す様々な取り組みを行ってまいります。
練習室1	82%	
練習室2	83%	
練習室3	84%	

#### IV. 令和3年度 施設管理への活動

##### 施設及び設備の維持保全及び管理

「総合的なマネジメント力」を発揮し、清掃・衛生管理・保守点検などの業務を的確・スムーズに行い、利用者に安全・安心で快適な施設空間を提供します。コロナ感染に教訓を得て、従来以上に清掃・消毒・換気等の徹底を図ります。

日常的メンテナンス、保守点検を行い、施設の経年劣化に対処し、運営上支障のある部分の修繕、取替を行います。適切な管理の下、故障不具合修繕を適切な費用で効果が上がる方法を模索していきます。

2022年度に予定される天井脱落対策工事に関して、今年度は実施設計と工事計画策定に入ります。併せて、舞台設備・音響照明設備の改修改善内容の検討を行い、同時期での実施計画と費用を確定し、天井工事費用とは別の一般修繕予算での申請案も作成します。

##### 1. 日常点検と予防保全

予防保全を実現するために、日々使用時の点検(日常点検)と定期的な専門会社による点検(定期点検)を確実に実施し、点検内容を確認・検証することで修繕の必要性を判断します。

日常点検時に発見された不具合は、即時対応の必要を判断した上で、補修・修繕を実施します。補修・修繕を実施した場合は、小破修繕として貴区への報告します。

##### ◎舞台設備保守

年間定期保守計画(別表2参照)を作成し、各所機材の定期保守を実施します。定期保守での不具合や修繕箇所等には、適宜内容を判断し必要な対応を行います。

ホールやリハーサル室等のピアノは、定期保守・定期調律を実施します。特にホールで使用するスタインウェイは、使用時に調律が必須、ヤマハは利用者の調律任意を継続し、管理者側で年3回の調律を行います。

舞台設備、備品も、経年劣化が進んでおり、公演本番に不具合が発生するリスクが増加しています。大規模改修は天井工事時に行う予定にし、緊急対応は適宜実施し、メンテナンスを強化します。

##### ◎小破修繕への考え方

2022年の天井工事実施に合わせて実施する基本計画を策定します。その上で、本年度は費用を有効的に使用して、ホール以外の部分で「安心安全快適」な施設環境を維持していくようにします。工事修繕が比較的高額になっており、全面交換が必要な機材の場合は新規リース等も視野に入れ対応していきます。

##### ◎光熱水費について

「光熱水費」については、LED化を進めており、今年度も上記小破修繕の中で、積極的に取り組んでいきます。節電節水への取り組みはより効果的な方法を模索していきます。

##### 2. 清掃、美観管理業務の方針

上質なコンサートホールとしてのグレードを維持するためにも、施設的美観を維持し利用者に不快感を与えることのないように努めます。コロナ感染対策での教訓を活かし、「消毒」についても引き続き適宜実施できるようにします。各所で経年劣化・汚れが目立ってきます。適宜必要な薬剤や清掃用具を適切に使用して適宜適切な清掃を行います。

##### 3. 備品管理

備品台帳により、備品及びリース品を管理します。

ホール附帯設備備品の使用は舞台スタッフにより貸出及び収納の管理を徹底します。リハーサル室他の備付備品はご利用者への貸出返還の管理を徹底します。貸出備品は需要に応じ、新たなものの導入も検討しています。

##### 4. 防火防災・防犯への取組み

##### ● 非常時対応マニュアルの整備

当施設は、商業ビルの中に位置しており、館内には不特定多数の方の利用が前提となっております。共同防火管理体制下の一員として、緊急時には所定の指示に基づき、スタッフが行動します。青葉区民文化センターとしての「非常時対応マニュアル」を整備し、緊急時に対応を行います。防犯対策については、ビル警備保安体制との連携を密にし、適宜適切な対応を心がけます。

##### 5. 運営組織の構造：少数精鋭による総合力を発揮する人材の配置

別紙：組織図・名簿参照

##### ●少数精鋭の「フィリアスタッフ」

親切丁寧な対応体制を最優先に組織を構築します。事務所スタッフは責任者を含む8名、舞台スタッフは3名で構成します。カウンタースタッフも含め、フラットな組織構造を目指し、共同事業体各社のスタッフ全員で、一体感を生み、少数精鋭の「フィリアスタッフ」として機能し、ご利用者へのサービス向上、より良い接遇をするようにします。

##### ●スタッフを対象とした各種の研修・ミーティング

研修やミーティングにより課題の共有、能力のブラッシュアップアップを行います。代表企業の個人情報・コンプライアンスの研修もオンラインや紙ベースで定期的実施。一堂に集まったのミーティングや研修は、コロナ対策を考えた実施方法等を模索しつつ適宜実施を考えます。日常的に意見交換、課題解決の模索等を行っていきます

個人情報保護教育	1回/年	接遇研修	適宜	事務所ミーティング	毎月
コンプライアンス研修	1回/年	テーマ別研修(金銭等)	適宜	カウンターミーティング	四半期
コンプライアンスチェック	毎月	他施設訪問研修	適宜	レセプションニストミーティング	四半期

「別表1」【青葉区民文化センター・フィリアホール施設基本使用料一覧表】

【単位：円(税込み)】

ホール利用料金

(要綱第15条)

用途	曜日	区分	(9時～10時)	10時～12時	13時～17時	(17時～18時)	18時～22時	
			※調律のみ					
ホール口 500席 1階384席 2階116席	入場料 徴収	平日	時間帯料金	(6,800)	18,500	37,500	(10,000)	41,500
			10時～17時		56,000			
			13時～22時		79,000			
			10時～22時		97,500			
	録音・撮影 (営利目的)	土日 休日	時間帯料金	(8,000)	21,500	46,500	(11,500)	46,500
			10時～17時		68,000			
			13時～22時		93,000			
			10時～22時		114,500			
	入場料 無料	平日	時間帯料金	(4,000)	10,500	22,500	(6,000)	24,500
			10時～17時		33,000			
			13時～22時		47,000			
			10時～22時		57,500			
録音・撮影 (非営利・個人 趣味利用等)	土日 休日	時間帯料金	(4,800)	13,500	28,000	(6,500)	27,500	
		10時～17時		41,500				
		13時～22時		55,500				
		10時～22時		69,000				
楽屋	楽屋1、2(18㎡)	10時～17時		500	800	(200)	800	
	楽屋3、4(26㎡)	13時～22時		800	1,100	(200)	1,100	
	楽屋5(36㎡)	10時～22時		1,000	1,600	(400)	1,600	

別表2 リハーサル室・練習室利用料金

(要綱第15条)

名称	面積定員	曜日	10:15～12:15	12:45～14:45	15:00～17:00	17:30～19:30	19:45～21:45
リハーサル室	(71.5㎡)	平日	2,350	2,350	2,350	2,700	2,700
	(80人)	土日・休日	2,850	2,850	2,850	3,000	3,000
練習室1	(24㎡)	平日	600	600	600	650	650
	(10人)	土日・休日	700	700	700	750	750
練習室2	(24㎡)	平日	600	600	600	650	650
	(10人)	土日・休日	700	700	700	750	750
練習室3	(27㎡)	平日	650	650	650	750	750
	(10人)	土日・休日	800	800	800	850	850

別表3 ホールの練習・リハーサル使用料金

(要綱第15条・利用細則第5条)

用途	曜日	区分	(9時～10時)	10時～12時	13時～17時	(17時～18時)	18時～22時	
			※調律のみ					
ホール 500席 1階384席 2階116席	練習利用 割引適用 の30%減免 後	平日	時間帯料金		7,350	15,750		17,150
			10時～17時		23,100			
			13時～22時		32,900			
			10時～22時		40,250			
	土日 休日	時間帯料金		9,450	19,600		19,250	
		10時～17時		29,050				
		13時～22時		38,850				
		10時～22時		48,300				
	リハーサル 利用 割引適用 の30%減免 後	平日	時間帯料金		7,300	15,700	(4,200)	17,100
			10時～17時		23,000			
			13時～22時		32,800			
			10時～22時		40,200			
土日 休日	時間帯料金		9,400	19,600	(4,550)	19,200		
	10時～17時		29,000					
	13時～22時		38,800					
	10時～22時		48,300					

別表2

## 維持管理年間計画(通年)

	業務	内容	頻度	実施詳細
機械設備	空調設備総点検		1回/年	全室空調設備の総点検
	空調設備フィルター保守	定期点検	1回/年	事務所空調機フィルター清掃
舞台設備等	舞台設備保守管理点検	定期点検	3回/年	舞台吊物等メンテナンス
	照明設備保守管理点検	定期点検	2回/年	舞台照明設備メンテナンス
	音響設備保守管理点検	定期点検	1回/年	音響装置メンテナンス
	ITV設備保守管理点検	定期点検	1回/年	映像設備メンテナンス
	ホール客席保守点検	定期点検	1回/年	指定業者により実施
ピアノ保守等	ピアノ保守管理(ホール) (スタインウェイ2台)	定期点検	各1回/年	納入ピアノメーカーの技術研修を受け、保守管理に精通した技術者による保守点検
	ピアノ保守管理(ホール) (ヤマハグランドピアノ1台)	定期点検	1回/年	
	ピアノ保守管理(リハーサル室) (ヤマハグランドピアノ1台)	定期点検	1回/年	
	ピアノ保守管理(楽屋3) (ヤマハアップライト1台)	定期点検	1回/年	
	ピアノ保守管理(練習室2・3) (ヤマハアップライト2台)	定期点検	1回/年	
	ピアノ調律(ホール)※1 (スタインウェイ2台)	調律	使用時	納入ピアノメーカーの技術研修を受け、保守管理に精通した技術者による調律
	ピアノ調律(ホール)※2 (ヤマハグランドピアノ1台)	調律	3回/年	
	ピアノ調律(リハーサル室) (ヤマハグランドピアノ1台)	調律	6回/年	
	ピアノ調律(楽屋3) (ヤマハアップライトピアノ1台)	調律	6回/年	
	ピアノ調律(練習室2,3) (ヤマハアップライトピアノ2台)	調律	6回/年	
清掃等	日常清掃業務	—	毎日	施設内清掃
	定期:床洗浄・ワックス塗布		1回/3ヶ月	
	定期:カーペット洗浄		1回/年	
	定期:窓ガラス(内面)		6回/年	
	特別:状況により		1回/年	汚れ、劣化の状況により実施
環境管理	ホール環境測定(空調・温度)		4回/年	空調・温度環境測定
	ホール環境測定(照度)		2回/年	照度測定
	害虫駆除※3		2回/年	バーカウンター等の害虫駆除
小破修繕		—	適宜	

※1:ホールスタインウェイグランドピアノは、定期保守調律以外に、使用時に調律必須(施設利用者負担)・自主は管理者負担

※2:ホールヤマハグランドピアノは、定期保守調律に加えて、年3回は調律を管理者負担で実施。使用状況により不定期に実施する場合もある。(なお原則として、施設利用者の使用時の負担なし・調律希望の場合は有料)

※3:環境管理中の害虫駆除は、定期清掃時バーカウンター内を年1回実施。必要に応じて、ホール内、楽屋給湯室等を1回追加する場合がある。

※ビル法定点検・測定及び防火対象物点検等はビル側にて実施。

## 令和3年度(2021年) 「青葉区民文化センター(フィリアホール)」 収支予算書及び報告書

収入の部 (税込、単位:円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	151,978,000		151,978,000		151,978,000	横浜市より
利用料金収入	24,847,000		24,847,000		24,847,000	想定稼働減・
自主事業(指定管理料充当の自主事業)収入	47,990,000		47,990,000		47,990,000	自主・共催とも公演本数減
自主事業収入			0		0	
雑入	4,359,000	0	4,359,000		4,359,000	
印刷代	78,000		78,000		78,000	
自動販売機手数料	390,000		390,000		390,000	
駐車場利用料金収入			0		0	
その他( )	3,891,000		3,891,000		3,891,000	協賛金は変わらず・ピアスを予算化
<b>収入合計</b>	<b>229,174,000</b>	<b>0</b>	<b>229,174,000</b>		<b>229,174,000</b>	

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
<b>人件費</b>	<b>86,494,000</b>	<b>0</b>	<b>86,494,000</b>		<b>86,494,000</b>	
給与・賃金	73,807,000		73,807,000		73,807,000	人件費給与 一部増額
社会保険料	12,687,000		12,687,000		12,687,000	上記給与の法定比率
通勤手当	0		0		0	
健康診断費			0		0	
勤労者福祉共済掛金			0		0	
退職給付引当金繰入額			0		0	
<b>事務費</b>	<b>10,315,000</b>	<b>0</b>	<b>10,315,000</b>		<b>10,315,000</b>	
旅費	2,634,000		2,634,000		2,634,000	旅費交通費交通・通勤費:社員交通費一部減
消耗品費	1,228,000		1,228,000		1,228,000	
会議賄い費			0		0	
印刷製本費	705,000		705,000		705,000	名刺・コピー・施設販促を削減
通信費	2,208,000		2,208,000		2,208,000	通信費(Wifi分増)・郵送料・運搬費(例年並み)
使用料及び賃借料	0	0	0		0	
横浜市への支払分			0		0	
その他			0		0	
備品購入費	300,000		300,000		300,000	備品購入減額
図書購入費	31,000		31,000		31,000	図書購入
施設賠償責任保険	96,000		96,000		96,000	
職員等研修費			0		0	
振込手数料			0		0	
リース料	2,513,000		2,513,000		2,513,000	各種リース:AEDリース削減(既存の継続で対応)
手数料	600,000		600,000		600,000	2018実績並みで想定
地域協力費			0		0	
<b>事業費</b>	<b>54,246,000</b>	<b>0</b>	<b>54,246,000</b>		<b>54,246,000</b>	
自主事業(指定管理料充当の自主事業)費	49,911,000		49,911,000		49,911,000	自主事業費は公演数変動
自主事業費	4,335,000		4,335,000		4,335,000	
<b>管理費</b>	<b>56,896,000</b>	<b>0</b>	<b>56,896,000</b>		<b>56,896,000</b>	
光熱水費	8,890,000	0	8,890,000		8,890,000	
電気料金	7,908,000		7,908,000		7,908,000	電気料金を2019実績で試算
ガス料金	0		0		0	該当無し
水道料金	982,000		982,000		982,000	水道料金は実績並み
清掃費	3,105,000		3,105,000		3,105,000	専用清掃・特別清掃(費用縮小)
修繕費	3,000,000		3,000,000		3,000,000	修繕費
機械警備費			0		0	該当無し
設備保全費	3,501,000	0	3,501,000		3,501,000	
空調衛生設備保守	221,000		221,000		221,000	空調機点検(予防保全含む)・フィルター交換
消防設備保守	48,000		48,000		48,000	防火対象物点検
電気設備保守	0		0		0	
害虫駆除清掃保守	22,000		22,000		22,000	各種測定を予算化:空調・照明・害虫駆除等
駐車場設備保全費	0		0		0	
その他保全費	3,210,000		3,210,000		3,210,000	舞台設備保守:その他保全費に予備費計上
共益費	38,400,000		38,400,000		38,400,000	共益負担金
<b>公租公課</b>	<b>13,026,000</b>	<b>0</b>	<b>13,026,000</b>		<b>13,026,000</b>	
事業所税			0		0	
消費税	12,966,000		12,966,000		12,966,000	消費税相当分:総費用減により減
印紙税	60,000		60,000		60,000	収入印紙
その他( )			0		0	
<b>事務経費(計算根拠を説明欄に記載)</b>	<b>8,197,000</b>	<b>0</b>	<b>8,197,000</b>		<b>8,197,000</b>	
本部分	6,881,000		6,881,000		6,881,000	当社本社経費分(固定金額)
当該施設分	1,316,000		1,316,000		1,316,000	事務経費:その他諸費用 費用削減
<b>二一対応費</b>			<b>0</b>		<b>0</b>	
<b>支出合計</b>	<b>229,174,000</b>	<b>0</b>	<b>229,174,000</b>		<b>229,174,000</b>	
<b>差引</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	
自主事業費収入	0		47,990,000	0		
自主事業費支出	0		54,246,000	0		
自主事業収支	0		△6,256,000	0		
管理許可・目的外使用許可収入						
管理許可・目的外使用許可支出						
管理許可・目的外使用許可収支						